

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	家庭児童相談室事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	01 子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVなどがない		
②大施策	子ども高齢者障がい者等への虐待やDV等を減らす		
③中施策	家族等、子ども、高齢者、障がい者等を支援する人の日常生活に関する悩みや不安を解消する		
④中施策事業の対象	児童及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	日常生活に関する悩みや不安を解消する場があることを知っており、それを活用することにより、地域での孤立や問題の重篤化を予防できている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・家庭相談室事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
家庭相談室の相談 件数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		2,500	2,500	2,600	2,600	2,600
	実績値	2,364	2,632				
単位	件						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			9,160千円	11,526千円	
人 件 費	a 事業費合計		3,209千円	5,617千円	6,438千円
	正規職員	人数	1人	1人	
		b 金額	5,951千円	5,909千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	2人	2人	
		金額	3,191千円	5,599千円	
人件費合計		9,142千円	11,508千円		
② 補助金等(収入)			232千円	162千円	0千円
③ コスト(①-②)			8,928千円	11,364千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			130円	165円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	児童や子育てに関する問題は複雑化してきており、その対応には、高い専門性を持った人材の確保と多機関との連携体制を整備することが、効率性のある計画推進のために必要。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	多機関との連携体制を整備。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	高い専門性を持った人材の確保。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	児童虐待・DV対策事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	01 子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVなどがない		
②大施策	子ども高齢者障がい者等への虐待やDV等を減らす		
③中施策	関係機関と連携して早期発見と素早い対応に努める		
④中施策事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> 要保護児童及びその家族、関係者等 DV被害者及びその家族、関係者等 		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民や関係機関が虐待やDVについての知識を持ち、必要な時に通報や連携支援を行うことにより、対象が早期に必要な支援を受けることができる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 要保護児童対策地域協議会 家庭相談室事業 DV相談事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
要保護児童対策地域協議会の管理家庭数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		90	90	100	100	100
	実績値	73	97				
単位	件						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			3,965千円	3,852千円	
人件費	a 事業費合計		2,179千円	2,079千円	1,716千円
	正規職員	人数	0.3人	0.3人	
		b 金額	1,786千円	1,773千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1人	1人	
		金額	2,126千円	1,997千円	
人件費合計		3,912千円	3,770千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			3,965千円	3,852千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			58円	56円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	まちづくり指標の平成29年度速報値によると、見守る地域のネットワークができていると思っている市民が29.7%と向上しており、早期発見・早期対応につながる地域の体制が進んでいると考えられる。児童福祉法の改正により、市の児童虐待対応範囲が変わってきていることへの体制整備が必要。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	虐待予防月間における関係機関への虐待予防啓発キャンペーン。 民生児童委員等への虐待予防に関する研修。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	上記の対象拡大。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	児童扶養手当給付事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる		
④中施策事業の対象	ひとり親家庭の児童及び保護者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	支援をもらえなく受けることにより、経済的負担が軽減し、安定した生活を送ることができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・遺児手当給付事業 ・児童扶養手当給付事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
現況届回収率	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		99.1	99.2	99.3	99.4	99.5
	実績値	99	98.2				
単位	%						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			232,451千円	239,597千円	
人件費	a 事業費合計		222,334千円	229,551千円	231,905千円
	正規職員	人数	1.7人	1.7人	
		b 金額	10,117千円	10,046千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		10,117千円	10,046千円		
② 補助金等(収入)			65,974千円	64,012千円	68,437千円
③ コスト(①-②)			166,477千円	175,585千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			2,420円	2,552円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>国の基準に従い、広く周知している。</p> <p>市民課とも連携を取り、必要な家庭には案内がいくようになっている。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	説明用シートを作成し、対象者にわかりやすく説明漏れがないように工夫した。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	なし	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	ひとり親支援施策事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	多様な主体者が連携し、家族を支える環境をつくる		
④中施策事業の対象	ひとり親家庭の児童及び保護者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	安定した就労や日常生活に関する支援を受けることにより自立した生活が送れるようになる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立支援相談事業 ・ 母子自立支援給付金事業 ・ 母子日常生活支援事業 ・ 母子家庭等児童入学記念品事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
ひとり親家庭の相談支援件数(実件数)	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		37	37	39	39	40
	実績値	35	41				
単位	件						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			3,779千円	3,785千円	
人件費	a 事業費合計		1,993千円	2,012千円	3,725千円
	正規職員	人数	0.3人	0.3人	
		b 金額	1,786千円	1,773千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1人	1人	
		金額	334千円	302千円	
人件費合計		2,120千円	2,075千円		
② 補助金等(収入)			2,065千円	1,606千円	0千円
③ コスト(①-②)			1,714千円	2,179千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			25円	32円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成と なっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業は それぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コ ストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価 指標、コスト、各 項目評価の観点 からの分析	ひとり親家庭は子どもの貧困問題とも関連しており、今後、より一層の対策が必要。現在、実施している取り組みを広く周知すること、関係機関の連携の強化が必要。
---	---

■改善案の検討

現年度に実施可 能な改善・調整事 項	現在、実施している取り組みを広く周知。	
翌年度以降に実 施可能な改善・調 整事項	就労、子どもの教育、生活困窮等に対し関係機関の連携強化によるワンストップ相談を実施。	
今後、改善・拡大 する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき 新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する 事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可 能とした内容の実 施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実 施可能とした内容 の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	障がい児支援施策事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	多様な主体者が連携し、家族を支える環境をつくる		
④中施策事業の対象	障がい児及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	日常生活や療育について相談する場があることを知っており、それを活用することにより、障がい児福祉サービスを利用したり、不安を解消することができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 心身障がい児相談事業 巡回訪問相談事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
障がい児相談支援 件数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		1,000	1,000	1,100	1,100	1,100
	実績値	1,146	924				
単位	件						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			9,376千円	9,667千円	
人 件 費	a 事業費合計		6,995千円	7,303千円	7,196千円
	正規職員	人数	0.4人	0.4人	
		b 金額	2,381千円	2,364千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		2,381千円	2,364千円		
② 補助金等(収入)			3,669千円	3,669千円	0千円
③ コスト(①-②)			5,707千円	5,998千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			83円	87円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	年々増加する障害児福祉サービス利用に対応して、相談支援体制の整備とその適正化をすすめるのに有効に機能している。今後、ニーズがより一層高まっていくことや国の示す方針への対応が必要。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	障害者自立支援協議会療育支援部会における今後の障がい児支援体制の検討。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	児童発達支援センターの設置に関する研究・検討。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 児童発達支援センターの検討	内容、理由、時期等 平成32年度までに各自治体に基本的に設置する国の方針。心身障がい児通園施設管理運営事業のあり方とともに検討。
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	児童館管理運営事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	17 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している		
②大施策	子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる		
③中施策	地域ぐるみで子どもを育て、見守る環境をつくる		
④中施策事業の対象	児童及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	児童館を拠点とした子育て支援事業や地域との連携した事業により、地域ぐるみの子育てができています		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・児童館事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
児童館利用者アンケートにおける満足度の割合	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		100	100	100	100	100
	実績値	0	95				
単位	%						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			95,267千円	116,552千円	
人件費	a 事業費合計		85,150千円	106,506千円	107,575千円
	正規職員	人数	1.7人	1.7人	
		b 金額	10,117千円	10,046千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	26人	3.3人	
		金額	51,710千円	1,955千円	
人件費合計		61,827千円	12,001千円		
② 補助金等(収入)			3,721千円	3,856千円	2,700千円
③ コスト(①-②)			91,546千円	112,696千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			1,331円	1,638円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	指定管理主催のイベントは、一般来館向けの子どもが参加できるサークルの一部として活用されている。また、地域の活動にも貢献できるイベントの開催もあり、指定管理者の特色が児童館運営に反映されてきている。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	指定管理者と一緒に考える。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	指定管理者と一緒に考える。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	児童福祉地域活動事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	17 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している		
②大施策	子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる		
③中施策	地域ぐるみで子どもを育て、見守る環境をつくる		
④中施策事業の対象	児童及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地域が主体となった子育て支援事業や地域との連携した事業により、地域ぐるみの子育てができています		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生児童委員事業 ・ 児童遊園設置補助事業 ・ 子ども会補助事業 ・ 社会福祉団体活動費補助事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
補助団体で活動する人数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値	/	163	165	168	170	175
	実績値	159	159				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値	/	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			10,092千円	9,889千円	
人件費	a 事業費合計		5,926千円	5,752千円	6,139千円
	正規職員	人数	0.7人	0.7人	
		b 金額	4,166千円	4,137千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		4,166千円	4,137千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			10,092千円	9,889千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			147円	144円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	子ども会や母親クラブ、民間の児童クラブへのバックアップを今後も続け、他世代への交流を含めた地域との連携を図りたい。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	他世代との交流を含めた地域とのつながりをもてる事業の企画検討をする。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	他世代との交流を含めた地域とのつながりをもてる事業の企画検討をする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	子育て支援センター事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	家庭や地域が子どもを大切に思い、支え合うことができるまちを醸成する		
④中施策事業の対象	児童のいる家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	子育て支援センターを拠点とした子育て支援事業や相談事業により、安心して楽しく子育てができています		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・子育て支援センター事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
年間利用人数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		目標値		12,000	12,000	12,500	12,500
	実績値	10,675	11,047				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			17,898千円	17,787千円	
人件費	a 事業費合計		11,947千円	11,878千円	12,260千円
	正規職員	人数	1人	1人	
		b 金額	5,951千円	5,909千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	6人	6人	
		金額	10,524千円	10,418千円	
人件費合計		16,475千円	16,327千円		
② 補助金等(収入)			14,586千円	14,492千円	0千円
③ コスト(①-②)			3,312千円	3,295千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			48円	48円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	利用人数は増加しているものの目標値には達していない。まちづくり指標の平成29年度速報によると、子育てが楽しいとする市民73.2%と低下しており、今後、より効果的な運営スタイルの検討が必要と考えられる。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	利用者アンケートによる実態把握。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	より効果的な運営スタイルの検討。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 利用者アンケート	内容、理由、時期等 利用者の実態把握等のため
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	児童手当給付事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	ゆとりを持って男女共に子育てを楽しむことができるよう応援する		
④中施策事業の対象	児童及びその家族等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	支援をもらえなく受けることにより、経済的負担が軽減し、ゆとりある生活が送れるようになっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 児童手当給付事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
現況届回収率	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		99.6	99.7	99.8	99.9	100
	実績値	99.5	99.7				
単位	%						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			1,193,350千円	1,172,601千円	
人件費	a 事業費合計		1,183,233千円	1,162,555千円	1,166,823千円
	正規職員	人数	1.7人	1.7人	
		b 金額	10,117千円	10,046千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	2人	3人	
		金額	656千円	958千円	
人件費合計		10,773千円	11,004千円		
② 補助金等(収入)			1,001,454千円	977,553千円	986,109千円
③ コスト(①-②)			191,896千円	195,048千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			2,789円	2,835円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	国からの基準に従い、適正に案内されている。
-----------------------------	-----------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	なし	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	なし	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	子ども子育て計画事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	ゆとりを持って男女共に子育てを楽しむことができるよう応援する		
④中施策事業の対象	子ども、子育てに携わる人		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	次世代を担う子どもたちが安心して生き生きと健やかに成長し、子どもを安心して生み育てられ、子育てするなら豊明市と思われるまちになっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 各課で実施している子ども・子育てに関する事業の進捗状況の把握 子ども・子育て会議の定期的な開催 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
計画中对象となる子どもの受入体制が維持できていない事業数(全13事業中)		事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
単位	事業	目標値		0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位	事業	目標値		0	0	0	0	0
		実績値	0	0				

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			3,606千円	4,444千円	
人件費	a 事業費合計		35千円	898千円	200千円
	正規職員	人数	0.6人	0.6人	
		b 金額	3,571千円	3,546千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		3,571千円	3,546千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			3,606千円	4,444千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			52円	65円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	おおむね計画通り進めている。
-----------------------------	----------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	今後も子ども・子育て会議を定期的で開催し、本市が進めていく各施策等について各委員と情報を共有しながら様々な事業を推進していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	なし	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	病後児保育事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	緊急時に対応できる体制を整える		
④中施策事業の対象	病後児童及びその家族等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	児童の病後にも安心して預けられるところがあるということが広く知られ、必要時に利用されている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・病後児保育室事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
病後児保育室の登録人数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		200	200	200	200	200
	実績値	0	141				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			16,782千円	22,119千円	
人件費	a 事業費合計		10,831千円	10,301千円	5,555千円
	正規職員	人数	1人	2人	
		b 金額	5,951千円	11,818千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	2人	
		金額	0千円	2,927千円	
人件費合計		5,951千円	14,745千円		
② 補助金等(収入)			3,375千円	2,828千円	0千円
③ コスト(①-②)			13,407千円	19,291千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			195円	280円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成28年度より病後児保育室開設となったところであり、開設設備コストの部分が大きい。現在は、登録者・利用者ともに一部の人に限定されている現状であるが、安全安心な体制を確保するために、当初の想定より看護師の配置を増員し、人員体制強化をはかった。今後もこの体制を維持しつつ、広く周知を図る必要がある。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	市民に広く周知を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	なし	
今後、改善・拡大する事業	事業名 周知の拡大	内容、理由、時期等 保育園等への案内文の配布
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	放課後児童健全育成事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	仕事と子育ての両立ができる環境をつくる		
④中施策事業の対象	留守家庭の児童及びその家族等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	学校の放課後や長期休暇にも安心して預けられるところがあるということが広く知られ、利用されている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童健全育成事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
児童クラブ待機人数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		10	10	5	5	5
	実績値	19	5				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			38,497千円	85,248千円	
人件費	a 事業費合計		23,619千円	70,475千円	71,412千円
	正規職員	人数	2.5人	2.5人	
		b 金額	14,878千円	14,773千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0.7人	0.7人	
		金額	12,752千円	12,752千円	
人件費合計		27,630千円	27,525千円		
② 補助金等(収入)			21,271千円	15,594千円	15,594千円
③ コスト(①-②)			17,226千円	69,654千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			250円	1,012円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	一部地域での4年生の受入れの希望調査など、親のニーズの多様化に応えられるよう受け入れ体制の変更をしてきた。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	小学校内で実施している放課後子ども教室との一体化。4年生希望者の受入れ。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	小学校内で実施している放課後子ども教室との一体化。4年生希望者の受入れ。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 子ども教室との一体化	内容、理由、時期等 子ども教室との一体化
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	保育所管理運営事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	仕事と子育ての両立ができる環境をつくる		
④中施策事業の対象	保育を必要とする人		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	保育を必要とする全ての人が保育サービスを受けることができる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模保育事業 ・事業所内保育事業等の充実 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
保育所の受入人数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		1,538	1,557	1,595	1,614	1,614
	実績値	1,306	1,358				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			1,355,979千円	1,452,139千円	
人件費	a 事業費合計		850,144千円	949,874千円	1,203,157千円
	正規職員	人数	85人	85人	
		b 金額	505,835千円	502,265千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	243人	243人	
		金額	324,101千円	346,681千円	
人件費合計		829,936千円	848,946千円		
② 補助金等(収入)			426,195千円	512,249千円	643,728千円
③ コスト(①-②)			929,784千円	939,890千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			13,514円	13,661円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	保育士不足等が子どもの受入人数に影響を及ぼしていると推測されるが、新たな子どもの受け皿として、小規模保育事業所を平成28年度には1か所、さらには子ども・子育て支援事業計画の目標設定を前倒して、平成29年度4月からはさらに2か所整備されている。これらのことを踏まえおおむね目標は達成されたと考えられる。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	今年度4月から小規模保育事業所が新たに2か所整備された。今後も引き続き地域型保育事業を推進していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	地域型保育事業を推進していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 小規模保育事業等の整備	内容、理由、時期等 子どもを受け入れることができる環境の整備として、今後本市が取り組んでいく主たる事業であると考えているため。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	認可外保育所事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	仕事と子育ての両立ができる環境をつくる		
④中施策事業の対象	認可外保育サービスを必要とする人		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	認可外保育サービスを必要とする全ての人がサービスを受けることができる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・認可外保育所の運営に対する補助事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
許可外保育所の入 園実績人数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		40	40	40	40	40
	実績値	45	40				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			19,275千円	17,005千円	
人 件 費	a 事業費合計		16,894千円	14,641千円	4,580千円
	正規職員	人数	0.4人	0.4人	
		b 金額	2,381千円	2,364千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		2,381千円	2,364千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	45千円
③ コスト(①-②)			19,275千円	17,005千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			280円	247円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	認可外保育事業はコスト削減を目指すものではなく、認可保育所の入園基準を満たさないニーズも含めた保育の受け皿として計画どおり事業を進めている。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	今年度についても認可外保育所への補助を行っていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	なし	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	心身障がい児通園施設管理運営事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	30 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている		
②大施策	子どもの個性や感性を尊重し、伸ばす環境をつくる		
③中施策	好きなことができるように周りの大人の理解を深め、支援できるようにする		
④中施策事業の対象	障がい児及びその家族、関係者等 (障がいを疑われる児含む)		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障がいに応じた療育支援や相談を受けることにより、不安が解消され、将来への見通しが持てるようになる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・どんぐり学園通所事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
どんぐり学園年間 登録人数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		50	50	50	50	50
	実績値	50	50				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			26,570千円	25,348千円	
人 件 費	a 事業費合計		10,502千円	9,393千円	10,304千円
	正規職員	人数	2.7人	2.7人	
		b 金額	16,068千円	15,955千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	4人	4人	
		金額	6,321千円	6,321千円	
人件費合計		22,389千円	22,276千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			26,570千円	25,348千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			386円	368円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	充実した療育サービスを提供し、大施策に貢献している事業であり、現在、母子通園のスタイルで実施。一方、障がい児福祉サービスの利用も増加してきており、利用者のニーズが多様化していたため、この事業の今後の方向性や運営スタイルを研究・検討していく必要がある。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	障害者自立支援協議会療育支援部会における今後の障がい児支援体制の検討。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	児童発達支援センターの設置に関する研究・検討。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 児童発達支援センターの検討	内容、理由、時期等 平成32年度までに各自治体に基本的に設置する国の方針。障がい児支援施策事業のあり方とともに検討。
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	児童障がい児サービス給付事業	部課名	健康福祉部・児童福祉課
		作成者	加藤 育子
①めざすまちの姿	30 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている		
②大施策	子どもの個性や感性を尊重し、伸ばす環境をつくる		
③中施策	好きなことができるように周りの大人の理解を深め、支援できるようにする		
④中施策事業の対象	障がい児及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障がいに応じた療育支援や居場所があることを知っており、それを活用することにより、個別性に応じた生活ができるようになる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・障がい児福祉サービス事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
障がい児福祉サービス事業利用件数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		130	130	130	130	150
	実績値	93	130				
単位	件						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			137,346千円	178,762千円	
人件費	a 事業費合計		131,395千円	172,853千円	186,266千円
	正規職員	人数	1人	1人	
		b 金額	5,951千円	5,909千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		5,951千円	5,909千円		
② 補助金等(収入)			90,300千円	97,209千円	139,500千円
③ コスト(①-②)			47,046千円	81,553千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			684円	1,185円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	市内のサービス事業所が増加、計画相談支援事業所による支援プラン作成率の向上により、利用者のニーズも反映しつつ、適正なサービスを実施できる状況となっている。そのことにより、利用者にとってよりよい療育につながっている。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	なし	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	なし	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		